

Message

第 20 号

2016. 12. 22

=メッセージ=

島根県立島根中央高等学校
島根中央高等学校PTA広報委員会

PTAは応援団

島根県立島根中央高等学校

PTA副会長 左田野 晃



島根中央
高校の今年
の入学生は、
第十期生と
なりました。

今年の入学生は、全国から集まった九十人、なんと四十八の中学校から集まっています。全校生徒も二百四十一人で全国一都二府九県、九十七の中学校からの出身者で構成される、なんともグローバルな学校となりました。十年前島根中央高校が誕生したとき、誰が今のような状況を想像し得たでしょうか。その象徴のように、今年初めて県外中学校出身の生徒会長も誕生しました。

生徒たちは、それぞれに夢や希望、目標を持ち、ここ川本の地でその実現に向けて頑張っています。私たちPTAもその実現を全力で応援したいと思っています。今回の便りで紹介されている学園祭でのバザーや球技大会の際の餅つきなどもその一つです。二期期が始まる前には、環境整備として草刈りなども行っています。生徒たちがグローバルになると同時に、PTAのメンバーもグローバルになつてきました。東京から子供のために孫のためにと手伝つてくださった方、広島から夫婦で来ていたたき手伝つてくださった方など、

これまでにはなかった光景だと思えます。ただ、流石に遠い、みんながみんなこのように参加できるわけではありませんので、手伝いではなくても、様々な行事に参加していただくことや、体育祭などに駆けつけてくださることも、PTA活動であったり、子どもたちへの大きな応援だと思えます。それぞれ都合がありますが、個々の家庭の事情に合った形でPTAの活動に参加・協力いただければと思います。一つひとつは大きな力ではないかもしれませんが、それらが集まれば大きな力になっていくと考えます。

保育所の保護者会から始まり、小学校や中学校のPTAにも関わらせていただきましたが、まさか高校でもこんなにPTA活動に関わることになると思いませんでした。でもこうやって関われるのもあと少しです。子どもには嫌がられるかもしれませんが、もうちょっと間近で子どもに関わってみませんか。三年生は進路選択の大切な時期、一・二年生も次の学年に向かいラストスパート。PTAも、そんなみんなを全力で応援しましょう。

教育の魅力化

島根県立島根中央高等学校

校長 福岡 俊行



島根中央高校にお世話になって二年が経ちました。保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に対し格別のご理解とご協力をいただき、誠に有難うございます。

今年も生徒たちは、全国大会出場多数の部活動や、学園祭などの学校行事、生徒会活動や地域の祭りへの出演などよく活躍しています。その姿を見る喜びはまさに教員冥利に尽きると感じています。

二年前に島根県の藤原教育長(当時)より本校校長の内示をいただいた際、二つのお話がありました。一つ目は「離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業」に町と連携して取組を進めること、二つ目は入学定員の減を控え、入学者の確保に努めることでした。

今年度の一年生は、県外からの三十四名を含め、入学定員を満了す九十名の入学生を迎えることとなりました。県外生の募集も定着してきています。

本校の魅力化事業は五年目の今年で区切りを迎え、その成果を踏まえ来年度から「教育魅力化推進事業」に取り組み予定です。これは、地域で育む魅力ある島根の教育を実現するため、連

携を深め、地域で育てたい子ども像を確立し子どもにとって真に魅力ある教育を進めていくものです。これまで以上に地域での事業を進め、また新たな魅力を生み出す努力を続けたいと思っています。

さて本校の特長は、「コース制・総合選択制」や部活動、「まちごとキャンパス学習」や「ふるさと学」といったキャリア教育などにありますが、そういった活動は、地域やPTAの皆様の支えがあつてはじめて成り立つております。

今年には福井会長と私がPTA全国大会に参加しましたが、島根中央高校のバザーや餅つきといったPTA活動は珍しく、全国でも発表できるレベルだと認識するとともに、これだけの活動をしていたら、これだけの活動にあらためて皆様に感謝を申し上げる次第です。

島根中央高校は、平成十九年に統合新設されてから間もなく十周年を迎えます。本校は統合以前も含め時代に応じて様々に変遷を続けてきましたが、この地域の人間教育を担うという使命は決して変わらないと思っております。

生徒達が本校の活動や事業に若い力をすべて注ぎ、成長し、そして本校に満足し卒業してほしい。それが私の願いであります。

第66回全国高等学校PTA連合会大会 (千葉大会)に参加して

PTA会長 福井 義信

八月二十五・二十六日と、千葉県幕張で開催された第66回全国高等学校PTA連合会大会(千葉大会)に福岡校長先生と参加をしました。大会テーマを「再発見!愛」今こそ信じよう愛の絆とし、一万人を超える多くの参加者が集う熱き大会となりました。

開会式では森田健作千葉県知事も出席され、熱いメッセージがとて印象的でした。

基調講演では、千葉敬愛短期大学学長の明石要一氏が「高校生の自立を支援するPTA活動のあり方」と題し、社会や子供たちの変化をユーモラスに紹介された。子ども達の自律を促すため、二つの風(家風・校風)と一つの色(地域色)を大切に、三位一体となって高校生を育成してほしいと締めくくられました。

分科会は、第一分科会「学校教育とPTA」、テーマは「グローバル化に対応した資質・能力を育む」に参加しました。学園祭のバザーやマラソン大会の支援活動、「キャリア講演会」等の実践報告を聴きながら、本校は全国各地から生徒が集まるグローバルな環境の中で、地域性を生かした特色ある教育活動が展開さ



れており、PTAの機会に応じた支援活動も、発表校に負けず劣らずの取り組みではないかと感じました。
記念公演は、「私の選んだ女優の道」と題し、千葉県出身の女優の市原悦子さんの独特の話し方と間合いに、会場全体が市原悦子の世界に飲み込まれました。朗読もあり、言葉ひとつで情景が見えてくる素晴らしさを体感させていただきました。
次年度は静岡、そして二〇二〇年度はいよいよ島根県で開催されます。講演者は誰?どのよう大会になるのだろうか等思いを膨らませ、連日三十度越えの猛暑の幕張をあとにしました。昨年に引き続き全国大会への参加の機会をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

七月十五日に、空と海、オリブの国、香川県で開催された第58回中国・四国地区高等学校PTA連合大会香川大会に参加させていただきました。中四国九県から約千九百人の参加があり、「PTAとふるさと」のソコチカラをテーマに行われた大会は、大変有意義なものでした。
大会は、宮本亜門氏の「違うから面白い、違わないから素晴らしい」と題した講演から始まり、研究協議として、岡山県立井原高等学校、高知県立高知工業高等学校、香川県立琴平高等学校の三校のPTAの取り組みの発表がありました。

PTA副会長 佐藤 龍美

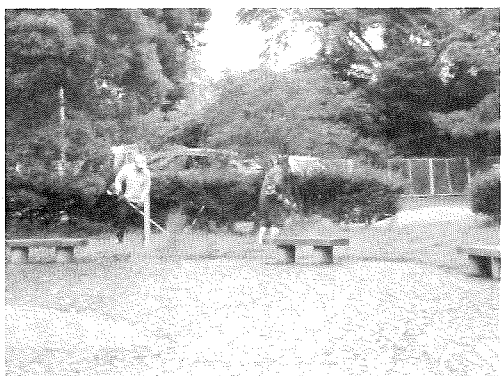
各学校の発表を通して感じたことは、学校行事や地域の行事に、保護者や地域の方が積極的に参加することで、生徒自身が人とのコミュニケーションの重要性に気がつき、多くの人に支えられている実感が持てること、また、地域の一員としてどう関わっていくのかという、問いかげのきっかけになりました。
生徒がさまざまな活動に参加して体験するということは、自らの考え、行動できる力が養われ、生徒自身の変化も期待され、成長できる良い機会になることを知り、学校、保護者、地域が連

夏祭りパトロール 環境整備

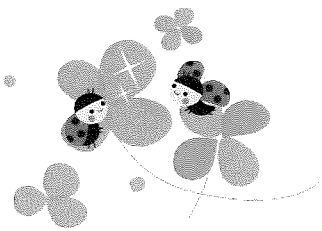
今年度も生活指導委員会の活動の一環として、夏休み中、地域の夏祭りパトロールと、奉仕作業を実施しました。

夏祭りパトロールは、昨年度と同様、美郷町の「美郷夏祭り花火大会」七月二十三日(土)と川本町の「ええなあまつりかわも」と七月三十日(土)をパトロールしました。両日とも好天に恵まれ、会場は多くの人出で賑わいました。パトロール中は、島根中央高校生や卒業生、保護者の方、多くの地域のみなさんと気持ちのよい挨拶をかわすことができました。

八月二十一日(日)には奉仕作業を実施しました。早朝からたくさん保護者の皆さんと先生方のご協力をいただき、校舎・江



風祭周辺の草刈りを中心に行いました。約二時間の作業をし、集めた草は二トントラックの荷台一杯になりました。
奉仕作業により、学校の周辺がきれいになり、生徒たちも気持ち良く二学期を迎えることができました。参加していただいた保護者の皆様、先生方、大変ありがとうございました。次年度もご協力のほどよろしく申し上げます。



「学園祭バザー」「餅つき」に参加して

福島 佐和

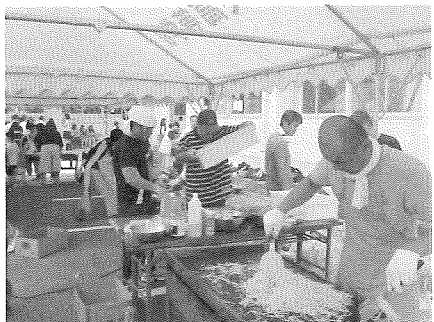
今年、初めてPTAの「学園祭バザー」に夫婦で参加させていただきました。

当日は、女性は調理室で下準備。前日に切った小分けにしてあった材料をコンロで焼きそばを作り、フランクフルトをポイルしたり、おにぎりを作ったりなど、みなさんテキパキ仕事をしながら、和気あいあいとしていて、初めて参加してとても楽しかったです。

男性は、職員室前のテントで焼きそばの仕上げや、販売の準備をしました。準備が整ってからは、いよいよテントに集合して販売開始。天候にも恵まれ生徒たちもたくさん買いに来てくれました。日頃は、寮生活しているため離れて生活していますが、バザーに参加して、息子の学校生活を見る事ができて安心しました。

「餅つき」は、平日だったのでお手伝いする方は少なかったです。三年生には、桜の花が入ったお餅を作りました。地元で採れたエゴマや春に収穫したよもぎを使って草餅を作り、全生徒、先生方に配布しました。OGの方が中心になっていろいろな種類の餅を作りました。

調理室の前では、木臼で餅つきをしていると、生徒が集まって餅つきをしたり、つきあがったお餅



を丸める作業を手伝ってくれたり、和気あいあいで楽しかったです。
つきたてのお餅は、砂糖醤油、あんこ、きな粉などを絡めたり、ホットプレートで焼いて焼き餅にしたりして、いろいろな種類の餅を作りました。生徒たちも、球技大会の間に、並んでおいしく食べている姿を見てうれしくなりました。たくさんの人たち、生徒は愛情をもって見守られているのだと感じました。
保護者のみなさん、年に一度、我が子の成長した姿を見に来て見ませんか?
PTA活動に参加されて、生徒、先生、PTAの役員さん、地域の方々と楽しい時間を過ごしてみませんか?

「餅つき」に参加して

大谷 美希

昨年に引き続き、今年もPTA行事の餅つきに参加させていただきました。

前日からの準備と、当日は朝から大量のお餅づくりにと正直疲れましたが、とても楽しかったというのが一番の感想です。

今年度は球技大会の出番が早く終わった生徒が早々に並び始めて行列ができていたので、声を掛けると、喜んで手伝ってくれました。保護者の方や子供たちとワイワイ言いながら、餅をついたり、餅を丸めたり、生徒の持ち帰り用を袋詰めしたり、磯辺焼き用に焼いたり、昨年は保護者のみの作業でしたが、今年度は生徒と一緒に作業で貴重な楽しい時間を過ごせました。

今年もOGの岡田さん親子のご協力で、三年生には桜の塩漬の祝い餅、よもぎ入りの草餅、えごま入りの餅、きなこ餅、砂糖醤油餅、そして今年度は新たにあんこ餅など、たくさん種類を作ることができました。岡田さんには前々から準備に大変お世話になり、今回も無事に餅つきを終えることができて本当に感謝しています。

PTA行事に参加することで、普段交流のない保護者さんとも楽しい時間を過ごすことができ、とても良かったと感じております。



す。来年のPTA行事は、ぜひ皆さんも参加してみてください。

保護者・生徒寄稿

今回は二学期中に全国大会に出場した生徒とその保護者の方に寄稿していただきました。
(カヌー部)

三年一組 森脇 建也くん
私は、カヌー部に入部するまで、カヌー経験は一度もありませんでしたが、それでも国体やインターハイに出場して入賞するという高い目標を持って、三年間日々練習に励んできました。

その結果、全国大会へ出場したものの、入賞するという目標は叶いませんでした。しかし、全国の舞台でカヌーを漕ぐという、貴重な体験をすることができました。全国大会に出場できるようになるまで、本当に大勢の方にお世話になりました。指導者の方々には、どんな時でも最高の練習環境を提供していただき、熱意のこもった手厚い指導をしていただき、また、どんなに忙しくても弁当を作ってくれた母、大会の時にはビデオを撮ってくれた父、応援してくれた弟家族の力も僕の背中を押してくれました。

全国大会に出場したことで、これまで当たり前だった日々の事に感謝できるようになりました。これからの学生生活でも支えてくださる方々や、自分がおかれた環境への感謝の気持ちを忘れず、日々努力していきたいと思えます。

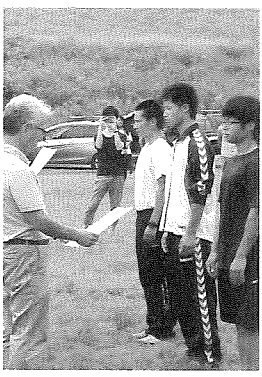
保護者 森脇 勲さん
国民体育大会といえば、毎年各都道府県持ち回りで開催してい

る程度で、あまり関心がありませんでした。

島根県での開催は昭和五十七年の「くにびき国体」で、私が中学生の時でした。まさか息子が国体(カヌー競技)に出場するとは。しかも開催地は遠く離れた岩手県。こんなことでもない限り岩手に行く機会はないとのこと、家族全員で応援に行きました。

残念ながら好成绩を残すことはできませんでした。高校から始めたカヌーで、三年間暑い日も寒い日も江の川の水面で、ただひたすら早く漕ぐために一生懸命練習したカヌー生活の集大成であったと思います。国体だけではなくインターハイにも出場することができましたが、これらの全国大会への出場は、息子にとつていい経験であり、よき思い出となったことと思います。岩手のほか、これまで各地への遠征に追っかけをしましたが、親も十分楽しませてもらいました。

これもカヌーを通じて、よき仲間、よき指導者との出会い、また恵まれた環境の中で集中してカヌーに取り組めたおかげと、学校関係者をはじめ、多方面の方々に感謝したいと思います。



〈吹奏楽部〉

三年一組 瀬上 茉那さん

今年も日本管楽合奏コンテスト全国大会に出場させていただきました。四年連続がかかっているというプレッシャーの中、予選を突破することができ、結果を見たときは本当に嬉しかったです。

大会当日までの日々は受験勉強との両立で大変だろうと思っていました。私には音楽がとても好きなので週に一日だけの合奏を楽しみに勉強を頑張ることができました。今年の自由曲「ストコフスキーの鐘」は難曲で、自分にとつてチャレンジの年となりました。全国大会という大きなステージでソロを吹かせていただけただけの経験は、とても貴重なものとなりました。

東京遠征の三日間は、三年間の中で一番濃い遠征でした。最後の大会というのもあって絶対負けたくないという気持ちが強いあまり、周りどぶつかる事も

ありました。ですが、最後は仲間との絆を感じる演奏が出来て、本当に良かったです。

大会後の慰労会では、たくさんした後輩たちが三年生に感謝の気持ちを伝えてくれて、本当に涙が止まりませんでした。改めて、吹奏楽部に入って本当に良かったなと思いました。

また、引退まで一緒に部活をしてくれた三年生と原田先生に感謝の気持ちでいっぱいです。三年間かかすことなく全てのコンクールに応援に来てくれた両親にも感謝しています。来年の管楽合奏コンテストは、五年連続がかかりますがプレッシャーに感じず、自分たちの音楽をしてみたいです。

終わりに、三年間東京へ送り出してくださった先生方、地域のみなさん、本当にありがとうございました。これからも、たくさんの方々に応援していただける部活であってほしいと思います。本当にありがとうございます。



保護者 瀬上 克司さん

十一月五日、日本管楽合奏コンテスト全国大会高校A部門に出場する吹奏楽部を追いかけて東京都文京区へ行ってきました。

会場は東京ドームに隣接する文京シビックホール。座席数は千八百席で悠長なさと会館の倍の収容人数を誇る素敵なホールです。

島根中央高校の出番は十一時十三分。出場三十六校のうち九番目で、昨年の二十七番目より募りですが、いざ本番が始まると、生徒達はこれまでの練習の成果を発揮し、応援に駆けつけていた保護者の中には感極まる方もおられました。

個人的にも今回の演奏曲は鐘の音が印象的で、何度聞いても目頭がウルツとしてしまいました。やはり今回も演奏が終了したときは感無量となりました。

ここまで感動を与えてくれる演奏に至るには私には想像をし得ない努力と苦勞があったんだろうと思います。これまでの頑張りを思うとまたウルツとしてしまいました。

娘は指導者や仲間達に恵まれた三年連続で管楽に出場させていただき、そのたびに保護者もワクワクさせてもらいました。学校のこれまでの様々なご支援に敬意を表し感謝いたします。そしてこれからも引き続き吹奏楽部の活躍を応援していきます。

編集後記

今年度は、二学期の様子もお伝えしたいという広報委員みんなの思いから発行回数を増やしました。と言っても、原稿依頼をさせていただいたみなさんのおかげでできることです。ご協力に対し、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

この二学期は、合唱コンクールや体育祭など生徒のみなさんのがんばりを見ることができたり、バザーや餅つき、環境整備、夏祭りパトロールなど、みなさんでPTA活動を盛り上げることもできた期間だったと思います。

次号は、卒業バージョンで発行する予定です。三年生のみなさんだれもが晴れやかな気持ちで卒業を迎えられますよう、体調に気をつけてこの冬をすこししてください。

今後「Message」をよろしく願っています。

